

# 青山サロン みんなで俳句をつくりましょう！



短歌・川柳・詩も OK

ハイクだより NO.5

2023年4月23日

## 「句帳」という名の紙と鉛筆から

俳句を書くには、紙と鉛筆があれば OK です。紙はチラシの裏でも何でもいい。筆記用具は、鉛筆でもボールペンでも何でもいい。こんなに準備の少ない趣味はなかなかないと思います。裏が白い紙をクリップで束ねたり、ホッチキスで綴じたりすればそれが「句帳」になります。「句帳」とは、俳句の夕ネをメモしたり、その日に出会った季語を書き留めたりする小さなノート。要はメモ張なので形にこだわる必要はありません。最近では、スマホに書き留めたり、録音機能を使って、その場でできた句を小声で吹き込んだりする人もいます。文明の利器は好みで使いましょう。

夏井いつき先生のことばから

俳句を知ると人生が変わる！

## 俳句こそ人生だ！

- 俳句で脳トレ！老けない脳に。
- 俳句で人生が楽しくなる！  
頭もよくなる！
- 俳句で脳が若返る！  
認知症も防げる！



### ◆次のページ

俳句・短歌・川柳を新聞や雑誌などから紹介します。俳人や歌人以外は苗字のみです。

俳句のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語が入る(季節を表す魔法の言葉。)
- ③ 切れ字がある(や かな けり)

- ◆ 蠟梅のひかりの枝を活けにけり・・・高橋
- ◆ 初詣寛解続きますように・・・山本
- ◆ ホットワインをなぶさめる夜更・・・岸上
- ◆ 耕運機行き交ふ音や春を待つ・・・平原
- ◆ 梅が香や上京の日の武者ぶるい・・・白倉
- ◆ 鼻眼鏡帳簿をめくる納税期・・・建石
- ◆ 園児らのとりどりに折る紙の雛・・・古野
- ◆ 鴨泳ぐ風なき午後の水面を・・・高橋
- ◆ 売りし田の荒れ地になりて冬の雨・・・竹内
- ◆ 寄せ鍋やふと気になりし自給率・・・加津
- ◆ 冴え返る風に構えて寺の門・・・古川
- ◆ 蝶生まる夫の畑を食い荒らし・・・藤
- ◆ 野焼きの火付きて火の音走りけり・・・藤原
- ◆ 昨日今日行方知れずのうかれ猫・・・富川
- ◆ 村役の揃ひて土手を焼きにけり・・・岸
- ◆ 薄氷に残る夕べの風の跡・・・矢野
- ◆ 老木の隣の若木梅白し・・・三輪
- ◆ 尾鈴山ながめては又大根引く・・・二浦
- ◆ 道祖神守りきし地の野焼きかな・・・立山
- ◆ 球場を巡る楽しみ二月来る・・・松浦
- ◆ つひひかや可帳土手の一万歩・・・谷口

短歌のしくみ

- ① 五七五七七の三十一音
- ② 季語はいらない。

- 焼き芋を二百円買ひレシートが  
福引券なり、豚肉当たる・・・原
- 真夜中にしわがれ声で鳴く老犬  
生きている事を知らせる如くに・・・白水
- 爆音を立て行く機影のその下に  
大根を引く我が暮らしあり・・・馬場
- お医者さんに「今年もよろしく」と言いか  
けて
- 「いや卒業を」と思いがめぐる・・・桑山
- 一歳児やる事すべて初体験  
それに立ち会う吾の幸せ・・・福島
- ミサイルを撃ち合う前に  
撃ち合われ関係築くが政治の役割・・・成田
- 夫逝きてがらんどうなり六畳の  
白きふすまに赤シャツ掛ける・・・森川
- 儲けなき農業所得打ち込んで  
e-Taxの送信を押し・・・中川
- 七五歳免許返納誓いしを忘れたことにし  
てまだ走る・・・広瀬
- 冬を越し緑湛えるほつれん草  
われも生きたしそなたのごとく・・・鈴木
- 祝傘寿ジャンボフラーの宅配便  
姪の真心スマホに残す・・・上柿

川柳のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語はいらない。

- ★ マイナンバーあの手この手の誘い水・・・柳川
- ★ ピカドンを忘れて増やす防衛費・・・野村
- ★ 節電が湯たんぼの地位高めあり・・・小川
- ★ J寧も何度も言えば馬鹿が付く・・・柿沼
- ★ マイナカード持たぬはやがて非国民・・・松江
- ★ アメリカの国防予算に組み込まれ・・・福家
- ★ いつか来た道を行くまい行かせまい・・・高橋
- ★ 後援会議員育てず天狗にし・・・よねず
- ★ 祖父が来て孫叱るなど父叱る・・・小藤
- ★ レジかごに半値シールの「レクシヨン」・・・金子
- ★ 原発の安全性も多数決・・・坂本
- ★ バス停に余白の多い時刻表・・・長友
- ★ ブラボーと何度も跳ねたいうさぎ年・・・長友
- ★ 二人から始め二人に戻る家・・・桜の寺
- ★ ときめきがいちばんアンチエイジング・・・破夢
- ★ 会いたいと賀状は来るが電話無し・・・マロン
- ★ 節電のためもう少し寝ていよう・・・洋ナシ
- ★ 防カメをひと睨みして出る銀行・・・小把瑠都
- ★ 類を滅ぼしかねぬ愛国心・・・宮本
- ★ 老い一人落ちた錠剤探す朝・・・妙見
- ★ 知事選も終わってみればそのまんま・・・庄子
- ★ 何で今高齢者から金集め・・・中村
- ★ 家計簿へ新たに追加防衛費・・・築池
- ★ 音楽はときどきタイムマシンです・・・ちよちよ
- ★ 新しい戦前にはせぬじやね年・・・成田



青山公民館の玄関「青山サロン ポスト」  
早速の投句ありがとうございます。みなさんからの投稿をお待ちしています。俳号(お名前)もお忘れなく！！

## 渥美清と俳句 ④

森英介『風天 渥美清のうた』文春文庫より

**小沢昭一の追悼文** 小沢昭一は昭和4年生まれ。3年生まれの渥美清の一つ年下。芸達者ばかりの「やなぎ句会」の中心メンバーの小沢昭一は、渥美清とは数多くの映画などで共演し、「話の特集句会」でも一緒に俳句を作っていた。

「渥美清さんは隠者・……早いもので渥美清さんがなくなってもう半年の余も過ぎました。思い出すと、渥美さんを初めて浅草のストリップ劇場のコントで観たときから、タダモノではないという印象を私はもちました。やや暴力的で、暗い陰があって、しかし台詞のメリハリがはっきりしていて、客の笑いをとるところはしっかりとる……というような、そんな彼の舞台に接して、私とは同年配と見て取ったこともあり、妙に刺戟を感じてよく観に行っただけです。

やがて浅草を離れた彼とは、テレビで一緒の番組に出るようにもなり、さらには俳句の会で一緒するようになって、交流が重なりました。「風天」という俳号だった彼の俳句は、やや破調ですが、温かみとペーソスの漂う句ばかりで、私はいつも「風天」の句を抜いていました。

いつもなにか探しているようだなひばり                      ゆうべの台風どこにいたちようちよ  
好きだから強くぶつけた雪合戦                      おふくろ見にきてるピリになりたくない白い靴  
(中 略)

彼は放浪の俳人などと呼ばれた山頭火や尾崎放哉の生涯を演じたくて、作家の早坂暁さんとロケハンしたりして準備していたようです。だから彼の俳句には、そんな俳人たちの句とどこか通じるものを私は感じます。

若き日、彼が結婚した時、私は心ばかりのお祝いに長崎三彩の壺を送りました。実はそれは新式の骨壺で、私はシャレに、というか半分ふざけて献上したのですが、彼はキャンディなどを入れて使ってくれて、彼が亡くなってから、夫人がやはり骨壺として使ってくれたということ、最近、夫人にお目にかかって伺いました。恐縮すると同時に、ありがたいことと手を合わせた次第です。その時、夫人曰く、「……だけど、あの人が亡くなったと思えないのです。いつものように、ふらっとどこかへ行ってるようで……」。渥美清という人は、「隠れる」ことの名人でした。私も「隠れる」ことは嫌いじゃありません。そのうちアチラで、二人で「隠れんぼ」でもやって遊びますか。

《この家の主留守らし燕の巢 変哲》 「This is 読売」1997年6月号より (つづく)



# 青山の作品コーナーその④

※4月7日 緑山 木吉

◆千鳥足桜を見ての帰り道

◆若き日に一人で歩いた桜道

◆夕暮れに鼻った歌い野道行く

◆若き日の苦勞実りて今があり

◆春が来た花粉と黄砂つれて来た

◆鶯の幼き声に癒されて

◆鯉のぼり腹いっぱい風をのみ

我が腹見れば勝っており

◆雨音に寝れぬ夜は思い出し

昔の歌を口ずさみおひ

◆なんのそのこの坂道をかけ上り

我が人生を重ねみるかな

※新春で一句 青山一休

◆受験生□□ナに負けず桜さく

◆桜咲き花見宴会酒のもう

◆田んぼの一生を子に説きながら 宏阿秋豊

◆野焼きあと踏まれて土筆早苗待つ

※子等への応援歌 宏阿秋豊

◆トラクターあやこる姉「日よしの

集いて笑う一丁前か

※騒々しう中ぐうきびの世話

宏阿秋豊

◆暮れ遅し東風南風喧嘩草むしり

こちはえ

※長雨の予報を聞いて肥料をやった中でベリ  
ーは花も芽もつけている。中には厳寒と言え落  
葉を忘れてる木もあるが、自然の力はすこ  
い。負けを認めつつハサミを持って畑中を見回  
る。年を忘れ頑張ります。 川崎 年治

◆福は内庭の豆鳩拾う鬼逃げた

◆西の空いちよう身葉をけずりさきこ

ぼう

◆四季変えた何処で育ったの蝶が舞う

※長雨で通路に水が溜まり、池と間違え、蛙が  
卵を産んだ 川崎 年治

◆長雨にだまされかえるの卵沼ウッフ

※近頃「の頃で一句 俊幸

◆目が覚めて起き上がりに一苦勞

◆目が弱り耳が弱るとしぎ認知

◆年を取り増える一方薬の数

減る一方髪の数

◆何だよこんなの中学時

老いてはつらいラジオ体操

※お寒いかぎりの政治で一句 俊幸

◆総理大臣替わるたびに裏切られ

◆国会は馬鹿でも世襲の勝つ処 ところ

◆威張り散らす外相も中国外相の前で

は猫と化す (茂木元外相)

◆永田町 民の生活視野の外 たみ